

日中戦争関連書籍目録 (初稿)

2000年6月28日

(西村×)

○資料・日記・回想録・伝記等

天羽英二日記・資料刊行会編『天羽英二日記・資料集』、天羽英二日記資料刊行会、1989-1990年

有田八郎『馬鹿八と人はいう』、光和堂、1959年

粟屋憲太郎ほか編『東京裁判資料木戸幸一訊問調書』、大月書店、1987年

石射猪太郎『外交官の一生』、太平出版社、1972年 (中央公論社、1986年)

板垣征四郎刊行会編『秘録板垣征四郎』、芙蓉書房、1972年

伊藤隆他編『本庄繁日記』、原書房、1967年

同『真崎甚三郎日記』、山川出版社、1981年

同『重光葵手記』、中央公論社、1986年

同『続重光葵手記』、中央公論社、1988年

同『東條内閣総理大臣機密記録』、東京大学出版会、1990年

同『牧野伸顕日記』、中央公論社、1990年

同『石射猪太郎日記』、中央公論社、1993年

同校訂『鈴木貞一日記・昭和八年』、『史学雑誌』第87編第1号、1978年

同ほか解説『続現代史資料4・陸軍畑俊六日誌』、みすず書房、1983年

石橋湛山全集編纂委員会編『石橋湛山全集』、東洋経済新報社、1970年

稲葉正夫編『岡村寧次大将資料・戦場回想編』、原書房、1970年

今井武夫『支那事変の回想』、みすず書房、1964年

同『昭和の謀略』、原書房、1967年

今村均『今村均大将回想録』、自由アジア社、1960-1961年 (復刻版『私記・一軍人六十年の哀歓』、芙蓉書房、1971年)

井本熊男『作戦日誌で綴る支那事変』、芙蓉書房、1978年

岩井英一『回想の上海』、私家版、1983年

宇垣一成『宇垣一成日記』、みすず書房、1970年

上村伸一『破壊への道』、鹿島研究所出版会、1966年

臼井勝美ほか編『外務省執務報告-東亜局』、クレス出版、1993年

内田康哉伝記編纂委員会編『内田康哉』、鹿島研究所出版会、1969年

梅津美治郎刊行会『最後の参謀総長梅津美治郎』、芙蓉書房、1976年

梅本番『大山勇夫の日記』、大山日記刊行委員会、1983年

遠藤三郎『日中十五年戦争と私』、日中書林、1974年

大久保達正ほか編『昭和社会経済史料集成・海軍省資料』、大東文化大学東洋文化研究所、1978年

大谷敬二郎『昭和憲兵史』、みすず書房、1966年

同『陸軍八十年』、図書出版社、1978年

岡田大将記録編纂会『岡田啓介』、1956年

岡田貞寛編『岡田啓介回顧録』、毎日新聞社、1977年

岡部直三郎『岡部直三郎大将の日記』、芙蓉書房、1982年

小川平吉文書研究会編『小川平吉関係文書』、みすず書房、1973年
尾崎秀実『尾崎秀実著作集』、勁草書房、1972年
海軍省海軍軍事普及部編『支那事変に於ける帝国海軍の行動』、鵬和出版、1985年
外務省編『日本外交文書』該当巻
同編『終戦史記録』、新聞月鑑社、1952年
同編『日本外交年表並主用文書』下、原書房、1966年
外務省百年史編纂委員会編『外務省の百年』、原書房、1969年
片倉衷『戦陣随録』、経済往来社、1972年
同『片倉参謀の証言』、芙蓉書房、1981年
河辺虎四郎『市ヶ谷台から市ヶ谷台へ』、時事通信社、1962年（復刻版『河辺虎四郎回想録』、毎日新聞社、1979年）
北博昭編『昭和十年前後期支那駐屯軍憲兵部文書』、不二出版、1992年
同『支那駐屯憲兵隊関係盧溝橋事件期資料』、不二出版、1992年
『極東国際軍事裁判速記録』、雄松堂、1968年
木戸日記研究会編『木戸幸一日記』、東京大学出版会、1966年
同編『木戸幸一関係文書』、東京大学出版会、1966年
木戸日記研究会・日本近代史料研究会編『稻田正純氏談話速記録』、木戸日記研究会・日本近代史料研究会、1969年
同編『岩畔豪雄氏談話速記録』、木戸日記研究会・日本近代史料研究会、1977年
栗原健・波多野澄雄『終戦工作の記録』、講談社、1986年
桑島節郎『華北戦記』、図書出版社、1978年（文庫版、朝日新聞社、1997年）
『現代史資料』該当巻、みすず書房
小磯国昭『葛山鴻爪』、丸ノ内出版、1968年
在華日本紡績同業界編『船津辰一郎』、東邦研究会、1958年
財団法人斉藤子爵記念会『子爵斉藤実伝』、財団法人斉藤子爵記念会、1941年
蔡徳金編『周仏海日記』、みすず書房、1992年
佐々木春隆『華中作戦』、図書出版社、1987年
同『長沙作戦』、図書出版社、1988年
佐藤賢了『大東亜戦争回想録』、徳間書店、1966年
同『佐藤賢了の証言』、芙蓉書房、1976年
佐藤尚武『回顧八十年』、時事通信社、1963年
佐藤元英『外務省公表集』、クレス出版、1993年
沢田茂『参謀次長沢田茂回想録』、芙蓉書房、1982年
沢田寿夫編『沢田節蔵回想録・一外交官の生涯』、有斐閣、1985年
サンケイ新聞社編『蒋介石秘録』、サンケイ出版、1975-1977年
参謀本部編『杉山メモ』、原書房、1967年
参謀本部所蔵『敗戦の記録』、原書房、1967年
重光葵『昭和の動乱』、中央公論社、1952年
同『重光葵回想録』、毎日新聞社、1978年
『十五年戦争極秘資料集』、不二出版、1987年
蒋緯国『抗日戦争八年』、早稻田出版、1988年
ジョセフ・グルー『滞日十年』、毎日新聞社、1948年

杉村陽太郎『国際外交録』、中央公論社、1933年
杉山元帥伝記刊行会編『杉山元帥伝』、原書房、1969年
須磨未千秋編『須磨弥吉郎外交秘録』、創元社、1988年
須磨弥吉郎『外交秘録』、商工財務研究会、1956年
高木惣吉『高木海軍少将覚え書』、毎日新聞社、1979年
同『高木惣吉日記』、毎日新聞社、1985年
高松宮宣仁親王『高松宮日記』、1995年
田中隆吉『裁かれる歴史』、新風社、1984年
種村佐孝『大本営機密日誌』、ダイヤモンド社、1952年（復刻版、芙蓉書房、1979年）
張群『日華・風雲の七十年』、サンケイ出版、1980年
陳立夫『成敗之鑑』、原書房、1997年
辻政信『亜細亜の共感』、東亜書房、1951年
土橋勇逸『軍服四十年の思出』、勁草書房、1985年
角田順編『石原莞爾資料（増補）国防論策編』、原書房、1984年
寺崎英成編『昭和天皇独白録』、文芸春秋、1991年
土肥原賢二刊行会編『秘録土肥原賢二』、芙蓉書房、1972年
東京裁判資料刊行会『東京裁判却下未提出弁護側資料』、国書刊行会、1995年
東郷茂徳『東郷茂徳外交手記・時代の一面』、原書房、1967年
ドムチョクドロブ『徳王自伝』、岩波書店、1994年
内政史研究会・日本近代史料研究会編『大蔵公望日記』、1974年
永田鉄山刊行会編『秘録永田鉄山』、芙蓉書房、1972年
西浦進『昭和戦争史の証言』、原書房、1980年
西春彦『回想の日本外交』、岩波書店、1965年
日本国際政治学会太平洋戦争原因研究部編『太平洋戦争への道・別巻資料編』、朝日新聞社、1963年
日本近代史料研究会編『西浦進氏談話速記録』、日本近代史料研究会、1968年
同『大蔵公望日記』、日本近代史料研究会、1973年
同『鈴木貞一氏談話速記録』、日本近代史料研究会、1974年
同『片倉衷氏談話速記録』、日本近代史料研究会、1983年
人間影佐禎昭出版世話人会編『人間影佐禎昭』、人間影佐禎昭世話人会、1980年
額田且『陸軍省人事局長の回想』、芙蓉書房、1977年
原田熊雄述『西園寺公と政局』、岩波書店、1950-1952年
広田弘毅伝記刊行会編『広田弘毅』、広田弘毅伝記刊行会編、1966年
船木繁『岡村寧次大将』、河出書房新社、1984年
防衛庁防衛研修所戦史室『戦史叢書』該当巻、朝雲新聞社
細川護貞『細川日記』、中央公論社、1978年
堀内干城『中国の嵐の中で』、乾元社、1950年
堀内謙介『堀内謙介回顧録』、サンケイ新聞社、1979年
本庄繁『本庄繁日記』、原書房、1967年
松井忠雄『内蒙三国史』、原書房、1966年
松岡洋右伝記刊行会編『松岡洋右・その人と生涯』、講談社、1974年

松本重治『上海時代』、中央公論社、1975年
三好捷三『上海敵前上陸』、図書出版社、1979年
武藤章『軍務局長武藤章回想録』、芙蓉書房、1981年
村田和志郎『日中戦争日記』、鵬和出版、1984-1986年
森金千秋『湘桂作戦』、図書出版社、1981年
同『華中作戦』、1979年
守島守人『陰謀・暗殺・軍刀』、岩波新書、1950年
遼寧省档案馆・小林英夫編『満鉄と盧溝橋事件』、柏書房、1997年

○満洲事変

今井清一ほか『満州事変』、青木書店、1971年
今井清一・藤原彰編『満州事変』、青木書店、1988年
入江徳郎ほか編『満州事変・軍ファッショ』、本邦書籍、1983年
臼井勝美『満州事変・戦争と外交と』、中公新書、1974年
同『満洲国と国際連盟』、吉川弘文館、1995年
海野芳郎『国際連盟と日本』、原書房、1972年
易顕石ほか『九・一八事変史』、新時代社、1986年
江口圭一『十五年戦争の開幕・満州事変から二・二六事件へ』、小学館、1988年
エドガー・スノー『極東戦線・一九三一～三四・満州事変、上海事変から満洲国まで』、筑摩書房、1987年
NHK取材班『張学良の昭和史最後の証言』、角川書店、1991年
同『「満洲国」ラストエンペラー』、角川文庫、1995年
同『満州事変世界の孤児へ』、角川文庫、1995年
大江志乃夫『張作霖爆殺』、中公新書、1989年
大阪経済法科大学『満州事変前夜における在間島日本総領事館文書』、大阪経済法科大学、1999年
緒方貞子『満州事変と政策の形成過程』、原書房、1966年
金子文夫『近代日本における対満州投資の研究』、近藤出版社、1991年
木間昇『「満州事変」・破局への道』、大平出版社、1985年
クリストファー・ソーン『満州事変とは何だったのか・国際連盟と外交政策の限界』、草思社、1994年
栗原健編『対満蒙政策史の一面』、原書房、1966年
小峰和夫『満州』、御茶の水書房、1991年
後藤孝夫『辛亥革命から満州事変へ』、みすず書房、1987年
鈴木隆史『日本帝国主義と満州』、塙書房、1992年
塚瀬進『中国近代東北経済史研究』、東方書店、1993年
中村勝範編『満州事変の衝撃』、勁草書房、1996年

西内雅『満洲事変・民族協和の現実』、大湊書房、1988年
西村成雄『中国近代東北地域史研究』、法律文化社、1984年
日本国際政治学会編『満洲事変』、日本国際政治学会、1970年
日本国際政治学会太平洋戦争原因研究部編『太平洋戦争への道・満洲事変』、朝日新聞社、1962年
同『太平洋戦争への道・満洲事変前夜』、朝日新聞社、1963年
馬場伸也『満洲事変への道』、中央公論社、1972年
林久治朗『満洲事変と奉天総領事』、原書房、1978年
林銑十郎『満洲事件日誌』、みすず書房、1996年
林政春『満洲事変の関東軍司令官本庄繁』、大湊書房、1977年
平塚証緒『昭和三年の張作霖爆殺事件から満洲建国』、新人物往来社、1989年
水野明『東北軍閥政権の研究』、国書刊行会、1994年
守島伍郎・柳井恒夫監修『満洲事変』、鹿島研究所出版会、1973年
山岸義雄『満洲事変従軍回顧』、近代文芸社、1990年
兪辛■『満洲事変期の中日外交史研究』、東方書店、1986年
歴史学研究会編『満洲事変』、東洋経済新報社、1953年
渡辺明『満洲事変の国際的背景』、国書刊行会、1989年

○日中戦争

赤木須留喜『近衛新体制と大政翼賛会』、岩波書店、1984年
A・スメドレー『中国は抵抗する』、岩波書店、1965年
浅田喬二編『日本帝国主義下の中国』、楽游書房、1981年
アジア経済研究所『中国抗日救国時論誌記事目録』、1981年
荒木和夫『北支憲兵と支那事変』、金剛出版、1977年
粟屋憲太郎・茶谷誠一編『日中戦争对中国情報戦資料』、現代史料出版、2000年
家永三郎『十五年戦争』、岩波書店、1998年
池田誠ほか編『抗日戦争と中国民衆』、法律文化社、1987年
同『世界のなかの日中関係』、法律文化社、1996年
石子順『日本の侵略中国の抵抗』、大月書店、1995年
石島紀之『中国抗日戦争史』、青木書店、1984年
石堂清倫『十五年戦争と満鉄調査部』、原書房、1986年
伊藤隆『十五年戦争』、小学館、1976年
同『近衛新体制』、中央公論社、1983年
伊藤隆・渡辺行男編『重光葵手記』、中央公論社、1986-1988年
井上清・衛藤瀋吉『日中戦争と日中関係・盧溝橋事件50周年日中学術討論会記録』、原書房、1988年
井上寿一『危機のなかの協調外交・日中戦争に至る対外政策の形成と展開』、山川出版社、

1994年

- 今井清一・藤原彰編『日中戦争』、青木書店、1988年
今井清一編『十五年戦争と東アジア』、日本評論社、1979年
今井駿『中国革命と対日抗戦・抗日民族統一戦線史研究序説』、汲古書院、1997年
井元熊男『支那事变作戦日誌』、芙蓉書房出版、1998年
入江昭・有賀貞編『戦間期の日本外交』、東京大学出版会、1984年
上村伸一『日本外交史・日華事变』、鹿島研究所出版会、1971年
白井勝美『近代中国をめぐる日本の外交』、筑摩書房、1983年
同『日中外交史研究・昭和前期』、吉川弘文館、1998年
同『新版日中戦争』、中公新書、2000年
内川芳美編『日中戦争』、平凡社、1975年
江口圭一『十五年戦争の開幕』、小学館、1982年
同『盧溝橋事件』、岩波ブックレット、1988年
同『十五年戦争小史』、青木書店、1991年
同編『証言・日中アヘン戦争』、岩波書店、1991年
大江志乃夫・浅田喬二ほか編『岩波講座・近代日本と植民地』、岩波書店、1992-1993年
王恩茂『抗日戦争』、王恩茂日記出版委員会、1996年
大杉一雄『日中十五年戦争史』、中公新書、1996年
大杉孝平編『日中戦争とインド医療使節団』、三省堂、1982年
岡義武『近衛文麿』、岩波書店、1972年
岡部牧夫『十五年戦争史論・原因と結果と責任と』、青木書店、1999年
奥村哲『中国の現代史・戦争と社会主義』、青木書店、1999年
郭沫若『抗日回想録』、平凡社、1973年
笠原十九司『日中全面戦争と海軍』、青木書店、1997年
笠原正明『大東亜戦争の序曲・シナ事变の真因』、国民会館、1992年
風見章『近衛内閣』、日本出版協同、1951年
鹿島平和研究所『日本外交史』、鹿島研究所出版、1973年
加藤陽子『模索する一九三〇年代』、山川出版会、1993年
華北交通社史編集委員会編『華北交通株式会社社史』、華北互助会、1984年
岸田五郎『張学良はなぜ西安事变に走ったか』、中公新書、1995年
北博昭『日中開戦・軍法務局文書からみた挙国一致体制への道』、中公新書、1994年
鬼頭明成『第二時世界大戦・中国戦線』、大平出版社、1985年
喜多村理子『徴兵・戦争と民衆』、吉川弘文館、1999年
許育銘ほか編『日中戦争初期における和平交渉に関する研究』、富士ゼロックス、1998年
木山英雄『北京苦住庵記・日中戦争時代の周作人』、筑摩書房、1978年
近代外交史研究会編『変動期の日本外交と軍事』、原書房、1987年
近代戦史研究会編『日本近代と戦争』、PHP研究所、1986年
具島兼三郎『日中戦争と国際情勢』、実業之日本社、1948年
黒羽清隆『十五年戦争史序説』、三省堂、1979年
同『日中15年戦争』、教育社、1977-1979年

同『日中戦争前史』、三省堂、1983年
楠原俊代『日中戦争期における中国知識人研究・もうひとつの長征・国立西南聯合大学への道』、研文出版、1997年
久保亨『戦間期中国自立への模索・関税通貨政策と経済発展』、東京大学出版会、1999年
桑島節郎『華北戦記・中国にあったほんとうの戦争』、朝日文庫、1997年
桑野仁『戦時通貨工作史論』、法政大学出版局、1965年
軍事史学会編集『軍事史学・日中戦争の諸相』、錦正社、1997年
現代史の会編『季刊現代史6・日中戦争の全面拡大と民衆動員の展開』37-38』現代史の会、1975年
児島襄『日中戦争』、文芸春秋、1984年
小島麗逸編『近代日中関係史料』第一集、龍溪書舎、1976年
小平喜一『湖南戦記』、私家版、1980年
五味俊樹ほか編『日本外交と対外紛争』、れんが書房新社、1984年
酒井哲哉『大正デモクラシー体制の崩壊・内政と外交』、東京大学出版会、1992年
阪本楠彦『湘桂公路一九四五年』、筑摩書房、1986年
坂本夏雄『盧溝橋事件勃発に関する一検証』、国民会館、1993年
柴垣芳太郎『老舎と日中戦争』、東方書店、1995年
J・パートラム『西安事件』、太平出版社、1973年
J・W・スティルウェル『中国日記』、みすず書房、1966年
高梨正樹編『日中戦争・泥沼化する中国戦線』、新人物往来社、1989年
高橋孝助・古厩忠夫編『上海史』、東方書店、1995年
千葉仁志『日中戦争・帝国陸海軍全作戦』、フットワーク出版、1992年
中央大学人文科学研究所編『日中戦争、日本・中国・アメリカ』、中央大学出版部、1993年
中国帰還者連絡会編集委員会編『私たちは中国でなにをしたか・元日本人戦犯の記録』、新風書房、1995年
東亜経済調査局『支那・満洲経済研究』、改造社、1937年
東亜研究所編『第三調査委員会報告書・南洋華僑抗日救国運動の研究』復刻版、龍溪書舎、1978年
戸部良一『ピース・フィーラー・支那事変和平工作の群像』、論創社、1991年
中村隆英『戦時日本の華北経済支配』、山川出版、1983年
長野広生『西安事変』、三一書房、1975年
西岡香織『報道戦線から見た「日中戦争」・陸軍報道部長真淵逸雄の足跡』、芙蓉書房出版、1999年
西村成雄『中国ナショナリズムと民主主義・二〇世紀中国政治史の新たな視界』、研文出版、1991年
同『張学良・日中の覇権と「満洲」』、岩波書店、1996年
日本国際政治学会太平洋戦争原因研究部『太平洋戦争への道・日中戦争』、朝日新聞社、1962年
野沢豊・田中正俊編『講座中国近現代史・抗日戦争』、東京大学出版会、1978年
野沢豊編『中国の幣制改革と国際関係』、東京大学出版会、1981年

野村浩一『蒋介石と毛沢東・世界戦争のなかの革命』、岩波書店、1997年
秦郁彦『日中戦争史』、河出書房出版、1961年（増補改訂、1971年）
同『昭和史を縦走する』、グラフ社、1984年
同『昭和史の謎を追う』、文芸春秋、1993年
同『盧溝橋事件の研究』、東京大学出版会、1996年
馬場明『日中関係と外政機構の研究』、原書房、1983年
姫田光義・陳平『もうひとつの三光作戦』、青木書店、1989年
姫田光義『「三光作戦」とは何だったのか・中国人の見た日本の戦争』、岩波ブックレット、
1995年
平塚証緒編著『日中戦争、日・米・中報道カメラマンの記録』、翔泳社、1995年
平野正『北京一二・九学生運動・抗日救国から民族統一戦線へ』、研文出版、1988年
藤原彰『日中全面戦争・拡大する大陸戦線と国民生活』、小学館、
同『昭和天皇の十五年戦争』、青木書店、1991年
藤原彰・姫田光義編『日中戦争下における日本人の反戦運動』、青木書店、1999年
藤原彰ほか編『日本ファシズムと東アジア』、青木書店、1977年
福田英雄編『華北の交通史・華北交通株式会社創立史小史』、TBSブリタニカ、1983
年
古野直也『天津軍司令部・1901-1937』、国書刊行会、1989年
古屋哲夫『日中戦争』、岩波新書、1985年
同編『日中戦争史研究』、吉川弘文館、1984年
北電会編『華北電電事業史』、電気通信協会、1975年
洞富雄編『日中戦争史資料』、河出書房新社、1971年
堀場一雄『支那事変戦争指導史』、時事通通信社、1962年
本庄比佐子他『近・現代中国に関する新聞報道の研究』、東洋文庫、1983年
本多勝一『南京への道』、朝日新聞社、1987年
毎日新聞社編『日中戦争』、毎日新聞社、1979年
益井康一『裁かれる汪政権』、植村書店、1948年（増補改題『漢奸裁判史』、みすず書
房、1977年）
松沢哲成『日本ファシズムの対外侵略』、三一書房、1983年
松浦正孝『日中戦争期における経済と政治・近衛文麿と池田成彬』、東京大学出版会、19
95年
松本重治『近衛時代』、中央公論社、1987年
同編『日中戦争・ジャーナリストの証言』、講談社、1986年
三国一郎・井田麟太郎編『日中戦争』、角川文庫、1985年
光岡玄編訳『日中戦争』、新人物往来社、1972年
三宅正樹・秦郁彦・藤村道生編『昭和史の軍部と政治』、第一法規、1983年
村田和志郎『日中戦争日記』、鵬和出版、1985年
森金千秋『日中戦争』、図書出版社、1982年
森松俊夫『昭和二年八月における上海出兵をめぐる陸海軍間の問題』、防衛研究所・研究
資料、1980年
森山康平『図説日中戦争』、河出書房新社、2000年
安井三吉『盧溝橋事件』、研文出版、1993年

矢部貞治『近衛文麿』、弘文堂、1952年
山岡貞次郎『支那事変』、原書房、1975年
楊克林・曹紅編『中国抗日戦争図誌』、柏書房、1994年
横山宏章『中国の政治危機と伝統的支配・帝国の瓦解と再興』、研文出版、1996年
吉岡吉典『日本の侵略と膨張』、新日本出版社、1996年
依田憲家編『日中戦争占領地区支配資料』、龍溪書舎、1987年
劉傑『日中戦争下の外交』、吉川弘文館、1995年
歴史学研究会編『日中戦争』、青木書店、1972年
ロナルド・ハイファーマン『日中航空決戦』、サンケイ新聞出版局、1973年
若林正文『台湾抗日運動史研究』、研文出版、1983年

○アジア太平洋戦争

会田雄次編『太平洋戦争』、筑摩書房、1969年
浅田喬二『日本帝国主義下の民族革命運動』、未来社、1973年
アメリカ合衆国戦略爆撃調査団編『日本における戦争と石油・アメリカ合衆国戦略爆撃調査団・石油・化学部報告』、石油評論社、1986年
荒井信一『第二次世界大戦』、東京大学出版会、1973年
同『日本の敗戦』、岩波書店、1988年
安藤良雄『太平洋戦争の経済史的研究・日本資本主義の展開過程』、東京大学出版会、1987年
五百旗頭真・北岡伸一編『開戦と終戦・太平洋戦争の国際関係』、情報文化研究所、1998年
家永三郎『太平洋戦争』、岩波書店、1986年
井上ひさし編『社史に見る太平洋戦争』、新潮社、1995年
今井清一編『開戦前夜の近衛内閣・満鉄「東京時事資料月報」の尾崎秀実政治情勢報告』、青木書店、1994年
今井清一・藤原彰編『太平洋戦争』、青木書店、1988年
入江昭『日米戦争』、中央公論社、1978年
同『太平洋戦争の起源』、東京大学出版会、1991年
インドネシア国立文書館編『ふたつの紅白旗・インドネシア人が語る日本占領時代』、木犀社、1996年
内海愛子・田辺寿夫編『アジアからみた「大東亜共栄圏」』、JCA出版、1983年
栄沢幸二『「大東亜共栄圏」の思想』、講談社現代新書、1995年
大畑篤四郎『太平洋戦争』、人物往来社、1966年
「海軍」編集委員会編『太平洋戦争』、誠文図書、1981年
笠原十九司・鈴木亮編『アジア・太平洋戦争』、ほるぷ出版、1995年
外務省編『日本の選択第二次世界大戦終戦史録』、山手書房新社、1990年
関礼雄『日本占領下の香港』、御茶の水書房、1995年

木坂順一郎『太平洋戦争』、小学館、1982年
同『太平洋戦争・大東亜共栄圏の幻想と崩壊』、小学館、1989年
近代日本研究会編『太平洋戦争・開戦から講和まで』、山川出版社、1982年
倉沢愛子編『東南アジア史のなかの日本占領』、早稲田大学出版部、1997年
クリストファー・ソーン『太平洋戦争とは何だったのか・1941～45年の国家、社会、そして極東戦争』、草思社、1989年
同『太平洋戦争における人種問題』、草思社、1991年
同『米英にとっての太平洋戦争』、草思社、1995年
黒羽清隆・吉田夏生『太平洋戦争』、太平出版社、1985年
軍事史学会編『大本営陸軍部戦争指導班機密戦争日誌・防衛研究所図書館所蔵』、錦正社、1998年
同編『第二次世界大戦・発生と拡大』、錦正社、1990年
同編『第二次世界大戦・真珠湾前後』、錦正社、1991年
同編『第二次世界大戦・終戦』、錦正社、1995年
現代アジア研究会編『世紀末から見た大東亜戦争・戦争はなぜ起こったのか』、プレジデント社、1991年
額縁厚『日本海軍の終戦工作・アジア太平洋戦争の再検証』、中公新書、1996年
講談社編集『太平洋戦争』、講談社、1990年
児島襄『太平洋戦争』、中公新書、1965-1966年
小林英夫『「大東亜共栄圏」の形成と崩壊』、御茶の水書房、1975年
同『大東亜共栄圏』、岩波ブックレット、1988年
駒田信二『私の中国捕虜体験』、岩波ブックレット、1991年
信夫清三郎『「太平洋戦争」と「もう一つの太平洋戦争」・第二次大戦における日本と東南アジア』、勁草書房、1988年
同『聖断の歴史学』、勁草書房、1992年
白井厚編『大学とアジア太平洋戦争・戦争史研究と体験の歴史化』、日本経済評論社、1996年
杉田一次『情報なき戦争指導・大本営情報参謀の回想』、原書房、1987年
杉原誠四郎『日米開戦とポツダム宣言の真実』、亜紀書房、1995年
同『日米開戦以降の日本外交の研究』、亜紀書房、1997年
須藤真志『ハルノートを書いた男・日米開戦外交と「雪」作戦』、文春新書、1999年
太平洋戦争研究会『図説太平洋戦争』、河出書房新社、1995年
高木惣吉『太平洋海戦史』、岩波書店、1949年
高木健一ほか編『香港軍票と戦後補償』、明石書店、1993年
高嶋伸欣・林博史編『マラヤの日本軍・ネグリセンビラン州における華人虐殺』、青木書店、1989年
田中宏ほか編『資料中国人強制連行の記録』、明石書店、1990年
茶園義男『密室の終戦詔勅』、雄松堂出版、1989年
中原茂敏『大東亜補給戦』、原書房、1981年
中村隆英・宮崎正康『史料・太平洋戦争被害調査報告』、東京大学出版会、1995年
中村平治・桐山昇編『アジア一九四五年』、青木書店、1985年
難波功士『「撃ちて止まむ」・太平洋戦争と公告の技術者たち』、講談社、1998年

日外アソシエーツ株式会社編『太平洋戦争図書目録・45/94』、日外アソシエーツ、1995年
日本国際政治学会太平洋戦争原因研究部編『太平洋戦争への道・開戦外交史』、朝日新聞社、1962年
同『太平洋戦争への道・三国同盟、日ソ中立条約』、朝日新聞社、1962年
同『太平洋戦争への道・南方進出』、朝日新聞社、1962年
野村実『太平洋戦争と日本軍部』、山川出版、
波多野澄雄同『「大東亜戦争」の時代』、朝日出版社、1988年
同『幕僚たちの真珠湾』、朝日新聞社、1991年
同『太平洋戦争とアジア外交』、東京大学出版会、1996年
服部卓四郎『大東亜戦争全史』、原書房、1965年
林三郎『太平洋戦争陸戦概史』、岩波書店、1951年
林茂『太平洋戦争』、中央公論社、1967年
原田勝正編『太平洋戦争』、平凡社、1975年
疋田康行『南方共栄圏・戦時日本の東亜アジア経済支配』、多賀出版、1995年
平塚証緒編『日米交渉決裂から開戦へ』、新人物往来社、1989年
福田茂夫『第二次大戦の米軍事戦略』、中央公論社、1979年
藤原彰『太平洋戦争』、文英堂、1970年
同『太平洋戦争史論』、青木書店、1982年
藤原彰編『太平洋戦争』、集英社、1980年
同『沖縄戦と天皇制』、立風書房、1987年
藤原彰ほか編『日本近代史の虚像と実像・満州事変～敗戦』、大月書店、1989年
フリーダ・アトリー『日本の粘土の足・迫りくる戦争と破局への道』、日本経済評論社、1998年
米国陸軍省編『日米最後の戦闘』、サイマル出版会、1969年
細谷千博ほか編『太平洋戦争』、東京大学出版会、1993年
三宅正樹『日独伊三国同盟の研究』、南窓社、1975年
宮崎芳三『太平洋戦争と英文学者』、研究社出版、1999年
森武麿『アジア・太平洋戦争』、集英社、1993年
山田郎『昭和天皇の戦争指導』、昭和出版、1990年
山本武利『特務機関の謀略・諜報とインパール作戦』、吉川弘文館、1998年
由井正臣『太平洋戦争』、吉川弘文館、1995年
吉川利治『泰緬鉄道・機密文書が明かすアジア太平洋戦争』、同文館出版、1994年
吉田裕『昭和天皇の終戦史』、岩波新書、1992年
吉見義明『草の根のファシズム・日本民衆の戦争体験』、東京大学出版会、1987年
陸上自衛隊衛生学校編『大東亜戦争陸軍衛生史』、非売品、1971年
歴史学研究会編『太平洋戦争史』、青木書店、1972-1973年
歴史検討委員会編『大東亜戦争の総括』、展転社、1995年
和久田幸助『日本占領下香港で何をしたか』、岩波ブックレット、1991年

○日本軍

- 大江志乃夫『統帥権』、日本評論社、1983年
北岡伸一『日本陸軍と大陸政策』、東京大学出版会、1978年
近代日本研究会『昭和期の軍部』、山川出版社、1979年
熊沢京治朗『天皇の軍隊』、現代評論社、1974年
S・ハンチントン『軍人と国家』、原書房、1978年
戸部良一『逆説の軍隊』、中央公論社、1998年
同『日本陸軍と中国・「支那通」にみる夢と蹉跌』、講談社、1999年
日本近代史料研究会『日本陸海軍の制度・組織・人事』、東京大学出版会、1971年
藤原彰『天皇制と軍隊』、青木書店、1978年
同『日本軍事史』、日本評論社、1987年

○満洲国

- 有馬勝良編『満鉄研究資料シリーズ』、龍溪書舎
『満鉄史料叢書』、龍溪書舎、1988年
- 愛新覚羅溥儀『わが半生・「満洲国」皇帝の自伝』、大安、1965年
愛新覚羅溥傑『溥傑自伝・「満洲国」皇弟を生きて』、河出書房新社、1995年
浅田喬二・小林英夫編『日本帝国主義の満洲支配・十五年戦争期を中心に』、時潮社、1986年
安藤彦太郎ほか編『満鉄・日本帝国主義と中国』、御茶の水書房、1965年
石山洋ほか編『内国雑誌重要記事索引・文献解題・社会経済史学文献目録、満洲国・支那関係雑誌重要記事索引、南支・南洋関係重要記事索引、雑誌図書重要記事索引』、皓星社、1996年
伊東六十次郎『満洲問題の歴史』、原書房、1983年
榎本捨三『関東軍総司令部』、経済往来社、1971年
H・シュネー『「満洲国」見聞記・リットン調査団同行記』、新人物往来社、1988年
岡部牧夫『満洲国』、三省堂、1978年
同編『初期の満洲国軍に関する資料』、不二出版、1992年
岡村敬二『遺された蔵書、満鉄図書館・海外日本図書館の歴史』、阿吡社、1994年
奥田健二・佐々木聡編『協調会・満鉄資料』、五山堂書店、1995年
加藤豊隆『満洲国権力の実態について』、満蒙同胞援護会愛媛県支部、1970年
神尾式春『まぼろしの満洲国』、日中出版、1983年
菊池寛『満鉄外史』、原書房、1979年

喜多一雄『満洲開拓論』、明文堂、1944年
国民経済研究協会・金属工業調査会編『第一次満洲産業開発五ヵ年計画書』、1956年
草柳大蔵『実録満鉄調査部』、朝日新聞社、1979年
児島襄『満洲帝国』、文芸春秋、1975-1976年
小林英夫『満鉄・「知の集団」の誕生と死』、吉川弘文館、1996年
同編『満鉄経済調査会史料』、柏書房、1998年
同編『近代日本と満鉄』、吉川弘文館、2000年
坂本龍彦『満洲難民祖国はありや』、岩波書店、1995年
佐久間真澄・柴田しず恵編『記録満洲国の消滅と在留邦人』、のんびる舎、1997年
島田俊彦『関東軍・在満陸軍の独走』、中公新書、1965年
上海満鉄会編『長江の流れと共に・上海満鉄回想録』、上海満鉄回想録編集委員会、1980年
沈潔『「満洲国」社会事業史』、ミネルヴァ書房、1996年
新人物往来社戦史室編『満洲国と関東軍』、新人物往来社、1994年
石堂清倫ほか『十五年戦争と満鉄調査部』、原書房、1986年
田嶋信雄『ナチズム外交と「満洲国」』、千倉書房、1992年
塚瀬進『満洲国・「民族協和」の実像』、吉川弘文館、1998年
中山隆志『関東軍』、講談社、2000年
永島勝介・安富歩編『関東軍参謀部作成総動員関係調査資料』、不二出版、2000年
野々村一雄『回想満鉄調査部』、勁草書房、1986年
原田勝正『満鉄』、岩波新書、1981年
松村知勝『関東軍参謀副長の手記』、芙蓉書房、1977年
満洲移民史研究会編『日本帝国主義下の満洲移民』、龍溪書舎、1976年
満洲弘報協会『満洲国現勢』、1935年
満洲国政府編『満洲建国十年史』、原書房、1969年
満洲史研究会編『日本帝国主義下の満洲・「満洲国」成立前後の経済研究』、御茶の水書房、1972年
満洲中央銀行史研究会編『満洲中央銀行史・通貨、金融政策の軌跡』、東洋経済新報社、1988年
満洲国史編纂刊行会編『満洲国史』、満蒙同胞援護会、1970-1971年
満鉄鉄研会編『満鉄鉄道技術研究所史』、満鉄鉄研会、1990年
南満洲鉄道株式会社編『満洲事変と満鉄』、原書房、1974年
宮西良雄編『満鉄調査部と尾崎秀実』、亜紀書房、1982年
村上美代治『歴史のなかの満鉄図書館・図書館活動の構図と原動力』、上村美代治、1999年
安富歩『「満洲国」の金融』、創文社、1997年
山田豪一『満鉄調査部・栄光と挫折の四十年』、日本経済新聞社、1977年
山本有造編『「満洲国」の研究』、京都大学人文科学研究所、1993年
山室信一『キメラ・満洲国の肖像』、中公新書、1993年

○その他個別テーマ（南京大虐殺・731部隊・従軍慰安婦等）

東史郎『わが南京プラトーン』、青木書店、1987年
粟屋憲太郎・吉見義明編『毒ガス戦関係資料』、不二出版、1989年
井口和起ほか編『南京事件京都師団関係資料集』、青木書店、1989年
江口圭一編『資料日中戦争期阿片政策』、岩波書店、1985年
江口圭一・芝原拓自編『日中戦争従軍日記』、法律文化社、1989年
岡田芳政ほか『続現代史資料12・阿片問題』、みすず書房、1986年
ジョン・ラーベ『南京の真実』、講談社、1997年
南京事件調査研究会編訳『南京事件資料集』、青木書店、1992年
南京戦史編集委員会編『南京戦史資料集』、偕行社、1989年
日中戦争史資料編集委員会編『日中戦争史資料』、河出書房新社、1973年
洞富雄編『日中戦争史資料・南京事件I・II』、河出書房新社、1973年
同編『日中戦争南京大虐殺事件資料集』、青木書店、1985年
森正孝ほか編『日本の中国侵略・中国側史料』、明石書店、1991年
同編『中華民国よりの掠奪文化財総目録』、不二出版、1991年

IJC国際セミナー東京委員会編『裁かれるニッポン・戦時奴隷制・日本軍「慰安婦」・強制労働をめぐって』、日本評論社、1996年
イワノフほか『恐怖の細菌戦・裁かれた関東軍関東軍第七三一部隊』、恒文社、1991年
上杉千年『従軍慰安婦問題の経緯』、国民会館、1994年
NHK取材班『幻の外務省報告書・中国人強制連行の記録』、日本放送出版協会、1994年
太田昌克『731免責の系譜・細菌戦部隊と秘蔵のファイル』、日本評論社、1999年
加々美光行・姫田光義『証言・南京大虐殺』、青木書店、1984年
笠原十九司『南京事件と三光作戦・未来に生かす戦争の記憶』、大月書店、1999年
高興祖、牧野篤『南京大虐殺・日本軍の中国侵略と暴行』、日本教職員組合・国民教育研究所、1986年
クマラスワミ『R. クマラスワミ国連報告書・人権委員会決議1994/45にもとづく「女性への暴力に関する特別報告者」による戦時の軍事的性奴隷制問題に関する報告書』、日本の戦争責任資料センター、1996年
清水晶ほか『日米映画戦・パールハーバー五十周年』、青弓社、1991年
戦争犠牲者を心に刻む南京集会編『中国人強制連行』、東方出版、1995年
千田夏光『従軍慰安婦』、三一書房、1978年
田中宏・松沢哲成編『中国人強制連行資料・「外務省報告書」全五分冊ほか』、現代書館、1995年
中央档案馆・中国第二歴史档案馆ほか編『証言生体解剖・旧日本軍の戦争犯罪』、同文館出版、1991年
常石敬一『消えた細菌戦部隊・関東軍第731部隊』増補版、海鳴社、1989年

同『医学者たちの組織犯罪・関東軍第七三一部隊』、朝日新聞社、1999年
七三一研究会『細菌戦部隊』、晩声社、1996年
七三一部隊国際シンポジウム編『日本軍の細菌戦・毒ガス戦』、明石書店、1996年
仁木ふみ子『無人区長城のホロコースト・興隆の悲劇』、青木書店、1995年
西原征夫『全記録ハルビン特務機関・関東軍情報部の軌跡』、毎日新聞社、1980年
秦郁彦『南京事件』、中公新書、1986年
ハル・ゴールド『証言・731部隊の真相・生体実験の全貌と戦後謀略の軌跡』、広済堂出版、1997年
ピーターB・ハーイ『帝国の銀幕・十五年戦争と日本映画』、名古屋大学出版会、1995年
平林久枝編『強制連行と従軍慰安婦』、日本図書センター、1992年
富士信夫『「南京大虐殺」はこうして作られた』、展転社、1995年
藤原彰『南京大虐殺』、岩波書店、1985年（新版、1988年）
同『南京の日本軍』、大月書店、1997年
同編『南京事件を考える』、大月書店、1987年
同編『南京大虐殺の現場へ』、朝日新聞社、1988年
歩平『日本の中国侵略と毒ガス兵器』、明石書店、1995年
洞富雄『南京事件』、新人物往来社、1972年
層『南京大虐殺・「まぼろし」化工作批判』、現代史出版会、1975年
同『決定版・南京大虐殺』、徳間書店、1982年
同『南京大虐殺の証明』、朝日新聞社、1986年
同編『南京事件』、河出書房新社、1973年
洞富雄・藤原彰・本多勝一編『南京事件を考える』、大月書店、1987年
同『南京大虐殺の研究』、晩声社、1992年
前川三郎『真説・南京攻防戦』、国書刊行会、1993年
本多勝一『南京への道』、朝日新聞社、1987年（文庫版、1989年）
同編『裁かれた南京大虐殺』、晩声社、1989年
松村高夫『「論争」731部隊』、晩声社、1994年
松本剛『掠奪した文化・戦争と図書』、岩波書店、1993年
森正孝ほか編『日本の中国侵略・中国側史料・南京大虐殺、占領支配政策、毒ガス戦、細菌戦、人体実験』、明石書店、1991年
森正孝・糟川良谷編『中国侵略と七三一部隊の細菌戦・中国側史料・日本軍の細菌攻撃は中国人民に何をもたらしたか』、明石書店、1995年
森村誠一『悪魔の飽食・「関東軍細菌戦部隊」恐怖の全貌』、光文社、1981年
吉見義明・林博史編『日本軍慰安婦・共同研究』、大月書店、1995年
吉田裕『天皇の軍隊と南京事件・もうひとつの日中戦争史』、青木書店、1998年
若葉みどり『戦争がつくる女性像・第二次世界大戦下の日本女性動員の視覚的プロパガンダ』、筑摩書房、1995年
渡辺寛『南京虐殺と日本軍』、明石書店、1997年